

## Ⅶ 労働組合・労働争議

### 1 県内の組織労働者数

厚生労働省が我が国の全ての労働組合を対象として、労働組合数、加盟組織系統等の状況を明らかにすることを目的として、毎年6月30日現在で実施している「労働組合基礎調査」によると、令和4年の県内の労働組合数は1,335組合(前年比27組合減少)、労働組合員数は167,846人(同2,094人減少)、推定組織率(雇業者に占める労働組合員数の割合)は19.7%(同1.4ポイント上昇)となっている。

適用法規別の労働組合員数は、労働組合法が133,961人(全体の79.8%)、地方公務員法が32,495人(同19.4%)、国家公務員法が919人(同0.5%)、地方公営企業等の労働関係に関する法律が471人(同0.3%)、行政執行法人の労働関係に関する法律が0人となっている。

労働組合法適用労働組合員数を産業別にみると、「製造業」が最も多く56,214人、次いで「建設業」の19,402人、「医療、福祉」の17,153人となっている。

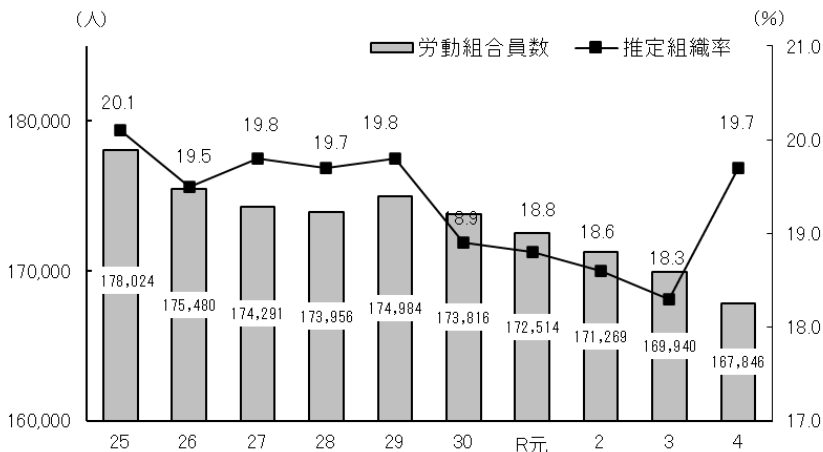
主要労働団体の労働組合員数は、日本労働組合総連合会長野県連合会(連合長野)が103,708人(前年比548人減少)、長野県労働組合連合会(県労連)が21,904人(同92人増加)となっている。

なお、全国の単一労働組合の労働組合数は23,046組合(前年比346組合減少)、労働組合員数は999万2千人(同8万6千人減少)となった。全国の推定組織率は16.5%(同0.4ポイント低下)となっている。

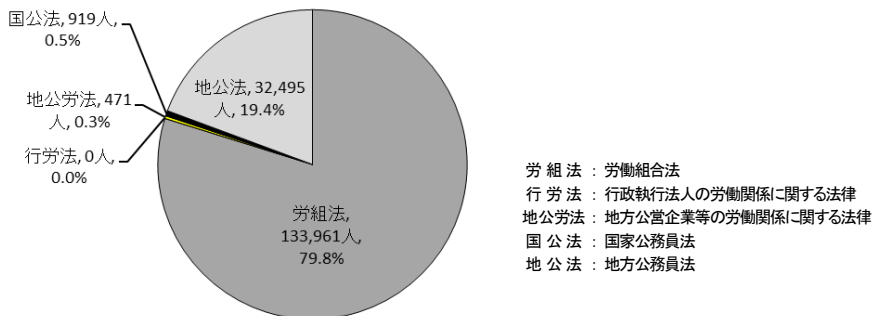
#### 【用語の解説】

**推定組織率** 長野県が算出する推定組織率は「経済センサス - 基礎調査」における雇業者数に「毎月勤労統計調査地方調査」の増減率により補正したものから、警察・消防などの職員を除いた組合結成可能な雇業者数に占める労働組合員数の割合。

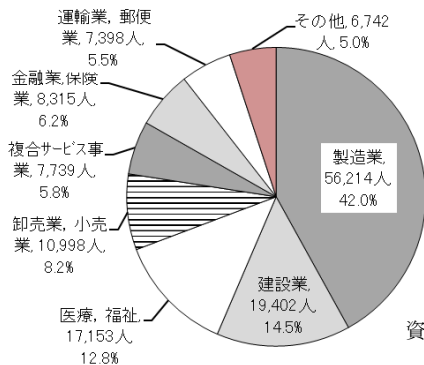
### 1) 労働組合員数及び推定組織率の推移（長野県・平成25～令和4年）



### 2) 適用法規別労働組合員数の割合（長野県・令和4年）



### 3) 産業別労働組合員数の割合<労働組合法適用労働組合>（長野県・令和4年）



資料：「令和4年労働組合基礎調査」長野県労働雇用課

## 2 争議行為の状況

厚生労働省の「令和3年労働争議統計調査」によると、「総争議」の件数は297件、総参加人員は60,389人となっており、前年に比べ、件数は6件(2.0%)の減少、総参加人員は2,963人(5.2%)の増加となった。「総争議」の件数は減少傾向にあるものの、比較可能な昭和32年以降、最も少なかった令和元年に比べ増加した。

このうち、「争議行為を伴う争議」の件数は55件、行為参加人員は7,858人となっており、前年に比べ、件数は2件(3.5%)の減少、行為参加人員は1,845人(30.7%)の増加となった。

「争議行為を伴う争議」を行為形態別にみると、「半日以上の実働停止」の件数は32件、行為参加人員は722人、労働損失日数は1,388日となっており、前年に比べ、件数は3件(8.6%)減少し、行為参加人員は84人(10.4%)の減少、労働損失日数は429日(23.6%)の減少となった。「半日未満の実働停止」の件数は36件、行為参加人員は7,267人となっており、前年に比べ、件数が2件(5.9%)の増加、行為参加人員は1,943人(36.5%)の増加となった。

県内の労働争議の新規発生件数は11件(前年比3件減少)、総参加人員は1,765人(同713人減少)となっている。また、争議行為を伴う争議の発生件数は8件(前年比2件減少)、行為参加人員は296人(同40人減少)となっている。

### 【用語の解説】

**総争議** 争議行為を伴う争議と争議行為を伴わないが解決のために労働委員会等第三者が関与した争議との合計をいう。

**争議行為** 労働関係の当事者がその主張を貫徹することを目的として行う行為及びこれに対抗する行為であって、業務の正常な運営を阻害する行為(半日以上の実働停止、作業所閉鎖、半日未満の実働停止、怠業、業務管理等)をいう。

1) 労働争議の種類別件数及び参加人員の推移（全国・平成28～令和3年）

年	総争議		争議行為を伴う争議			争議行為を伴わない争議	
	件数	総参加人員	件数	総参加人員	行為参加人員	件数	総参加人員
平成28年	391	69,533	66	52,415	15,833	325	17,118
29	358	132,257	68	72,637	17,612	290	59,620
30	320	103,342	58	51,038	10,059	262	52,304
令和元	268	105,340	49	57,345	17,763	219	47,995
2	303	57,426	57	32,436	6,013	246	24,990
3	297	60,389	55	38,540	7,858	242	21,849

※労働争議の件数は、原則として単独争議を1件として取扱うが、連合争議も1件として取扱う。

2) 争議行為を伴う争議の行為形態別件数、行為参加人員及び労働損失日数の推移（全国・平成28～令和3年）

年	半日以上同盟罷業			半日未満同盟罷業		怠業		その他	
	件数	行為参加人員	労働損失日数	件数	行為参加人員	件数	行為参加人員	件数	行為参加人員
平成28年	31	2,383	3,190	47	13,698	-	-	-	-
29	38	7,953	14,741	46	9,917	-	-	-	-
30	26	955	1,477	42	9,260	3	61	1	27
令和元	27	5,345	11,002	33	11,609	1	1,080	1	27
2	35	806	1,817	34	5,324	-	-	-	-
3	32	722	1,388	36	7,267	-	-	-	-

3) 労働争議発生件数（長野県・平成27～令和3年）

年	総争議		争議行為を伴う争議		争議形態						
					半日以上同盟罷業			半日未満同盟罷業		その他	
	件数	総参加人員	件数	行為参加人員	件数	行為参加人員	労働損失日数	件数	行為参加人員	件数	行為参加人員
平成28年	20	4,846	18	1,347	2	209	209	17	1,138	-	-
29	23	6,858	21	1,459	2	91	91	20	1,368	-	-
30	18	3,135	16	1,135	1	1	1	16	1,134	-	-
令和元	11	3,130	10	787	1	1	1	9	783	-	-
2	14	2,478	10	336	3	26	1	9	321	-	-
3	11	1,765	8	296	3	35	1	6	261	-	-

資料：「令和3年労働争議統計調査」厚生労働省、長野県労働雇用課